



岩手

日本が誇る
漆文化の伝統を受け継ぐ
岩手浄法寺漆の
あらたなる挑戦

浄法寺漆産業

浄法寺漆産業（岩手県盛岡市上ノ橋町、松沢卓生社長、019・656・7829）は、平成21年の創業以来、「地域を代表する特産物である二戸地方の浄法寺漆を用いて地域経済を活性化すること」をモットーに、漆の精製および販売、お椀や箸などの漆製品の製作・販売を主業としており、漆器はもろろんのこと、浄法寺漆を100%使用したチューブ入り漆の販売も行っている。

この浄法寺産の漆は、国内のほとんどで使用されている中国産の漆に比べて、主成分のウルシオールが多く含まれており、真珠のような独特の輝きを放つのに加え、耐久性があるのが特徴である。そのため値段は高いが、金箔を貼る際の接着剤として、京都・金閣寺、日光・東照宮、平泉・中尊寺金色堂などでも使用されている他、欧州の博物館や美術館で展示されている漆器の定期的な修理の際にも使用されるなど、国内外から高い評価を得ている。



漆を採取している様子

また、当社では、漆を使用したオリジナル新商品の開発にも力を入れており、第1弾として発表したのが、純国産にこだわりの山口県萩市のガラス工房とのコラボレーションによって制作した「urushito（ウルシト）グラス」である。JETRO（独立行政法人日本貿易振興機構）の支援を受けてニューヨークなどで開催された展示会では、常に好評を博している。この他にも、浄法寺漆や漆器の販路拡大のためにさまざまな取組みを行っており、スイスの高級文具メーカーであるカランダッシュや、中国への漆器輸出など、海外でも実績を重ねている。「日本が誇る漆文化を、岩手の浄法寺からどんどん海外に発信していきたい」と語る松沢社長。同社の取組みが評価されて、平成23年にはグッドデザイン賞の特別賞を受賞するなど、今後も同社の活躍から目が離せない。

商品の注文など詳しい内容はホームページにて

<http://www.japanjoboji.com/>



urushito（ウルシト）グラス